

2010年 活動TOPICS

2010年の活動実績をご紹介します。

Hondaの安全運転普及活動は、子どもから高齢者まで、「各年代に対応した交通安全教育」を学べる場と機会を提供しております。

また、その実践をサポートするための教育プログラムや教育機器を開発する「ソフトウェアの開発」。

自動車教習所をはじめとする関係諸団体との「普及活動の連携強化」を進めております。

幼児・小学生



p14

「止まる」「見る」を軸とした体験教育を、子どもたちに提供しています。

中学・高校・大学生



p16

交通社会の一員として安全運転の基礎を伝えています。

運転者（一般・指導者）



p18

安全運転に役立つ豊富な知識や技術をお届けしています。

高齢者



p20

日頃の交通行動を振り返っていただく機会を提供しています。

ソフトウェアの開発

p22

運転者に気づきを促す教育プログラムや教育機器を開発しています。

普及活動の連携強化

p24

- ①自動車教習所との連携
- ②関係諸団体との連携と情報発信活動



「止まる」「見る」を軸とした体験教育を、子どもたちに提供しています。



Hondaは、幼児期から発達段階に合わせた交通安全教育が必要であると考え、体験を通し交通行動の基本を伝える教育プログラムや教材を開発しています。また、こうしたノウハウを子どもたちの安全教育に携わる保護者や学校、地域の指導者にお伝えする指導者養成活動に力を入れ、子どもたちへの交通安全教育の普及に取り組んでいます。

子どもの発達段階に応じた「あやとりい」

交通安全教育プログラム「あやとりい」は、1993年にHondaが三重県鈴鹿市と協力して開発したもので、成長に応じ3つのプログラムがあります(P8参照)。これらのプログラムは、幼稚園・保育園、小学校や地域の指導者を中心に活用されており、今年は全国各地で約5千人(10月末現在)の子どもたちに参加いただきました。

幼児から小学校低学年向けの「あやとりい ひよこ編」は、今年新たに教育現場の実情や子どもの特性に合わせ、集団学習や繰り返し学習をしやすい内容として再編。幼児が指導者の言葉に聞き入るプログラムと好評をいただいています。鈴鹿市の玉垣保育所では、今年8月、地域の交通教育指導員が「あやとりい ひよこ編」の指導と通学路での歩行講習を実施しました。こうした「あやとりい」の指導をより多くの地域に普及させるため、地区普及ブロックのインストラクターが、幼稚園教諭や保育士、地域の交通安全指導員に指導方法を伝える研修を実施するなど、指導者の養成に力を入れました。今年は、全国24府県119市区町村約1,100人(10月末現在)の指導者に「あやとりい」のノウハウをお伝えしています。



埼玉県秩父市の交通安全教育担当指導員による交通安全教室



三重県鈴鹿市立桜島小学校では、鈴鹿市交通教育指導員が「あやとりい」の座学の後、歩行講習を実施

危険を見て学ぶ交通安全教室

Honda関連企業では、自治体や関係諸団体と協力して、親子で楽しく交通安全を学べる「親子交通安全教室」を、地区普及ブロックのサポートを受けながら開催しています。

九州地区では、「熊輪会」^{*}のインストラクターが活躍。今年は、9つの地域で(11月末現在)、関連企業近隣の親子を対象とした交通安全教室を開催しました。地元自治体や警察などと連携し、飛び出しや巻き込み事故など子どもに多い事故事例を模擬再現したり、クルマの運転席から見た死角を子ども自身の目で見て確かめる体験など、子どもたちに気づきを促すプログラムを実施しています。Hondaは、2008年より関連企業へ、交通安全指導を担う専任のインストラクターを養成する活動に力を入れており、こうした地域への安全活動が広がり始めています。他にも、模擬事故体験(埼玉普及ブロック)や自転車実技教室(鈴鹿普及ブロック)など、「見て」「聞いて」体験できる様々なプログラムを実施。身近に潜む危険を、子どもたちにわかりやすく伝えています。

※九州各地のHonda関連企業38社からなる組織。



九州地区で開催された熊輪会インストラクターによる親子交通安全教室

子どもたちに交通ルールやマナーを伝える活動

Hondaは、より多くの子どもたちに交通ルールやマナーの大切さを知ってもらうため、イベントでの啓発活動にも取り組んでいます。

今年8・9・10月には、東京・福岡・札幌で「Honda交通安全かるた」や「自転車シミュレーター」を使った「交通安全教室」を開催。「Honda交通安全かるた」は、かるたを通じて、交通ルールやマナーを学べるプログラム。イベントに訪れた親子にも「遊びながら楽しく学べる」と大好評でした。指導者用マニュアルがついたことで、地域イベントや学校など教育現場で使いやすいとの声を多数の指導者からいただきました。

また、イベント会場や交通教育センターで開催している「親子でバイクを楽しむ会」では保護者が先生となって、子どもにバイクを通じて交通ルール、マナーの大切さを伝えています。保護者の方からは、親子の絆を深めることができると評価を得ています。



福岡県で開催されたHonda交通安全かるたを使った「Honda×小学館 交通安全教室」



栃木県で開催された親子でバイクを楽しむ会 静岡県磐田警察署の小学校自転車安全教室



指導者の声

「あやとりい」は、交通体験の少ない子どもたちに「止まる」「見る」等の交通安全の基本を教える上で、実際に自分たちの足で走ってみて止まる体験や、簡単な実験などが含まれ、体験的で納得しやすくなっています。また、「あやとりい ひよこ編」は、イラストを使って道路の正しい通行場所を子どもたちに示してもらうなどの工夫があり、子どもたちの理解度を確かめながら進められるので、指導しやすさを実感しています。これからも、子どもたちに本当に伝わる交通安全教室をめざして、Hondaのインストラクターの方と共に取り組んでいきたいと思っています。

熊本県 大津地区交通安全協会 交通安全教育講習員 桑原 洋子 さん

交通社会の一員として安全運転の基礎を伝えています。



登下校などを通じて、自転車・二輪車など新しい交通手段を使い始める中学・高校・大学生には、交通社会人としての自覚を促し、安全な交通行動の実践へと導くことが大切です。Hondaは、この世代の方々にも交通社会における危険を伝え、危険を予測する能力の向上や交通ルール・マナーの大切さを伝える活動に取り組んでいます。

自転車乗用中の事故を防ぐために

自転車乗用中に最も事故にあいやすいのが16～24歳の年代であり、次に多いのは15歳以下です。また、中学生から通学で自転車を利用し始める年代となります。そのため、中学生・高校生に向けた自転車交通安全教室は、自治体、警察、自動車教習所からの要請が増えています。Hondaはこうしたニーズに応えるために、「Honda自転車シミュレーター」を活用した自転車交通安全教室の指導マニュアルを整え、指導者の養成に積極的に取り組んでいます。

地域の交通安全指導員とともに浜松普及ブロックでは今年、静岡・石川・岐阜県内の中学・高校で、自転車交通安全教室を開催。代表生徒に自転車シミュレーターを体験してもらい、その映像を全員で見ながら、事故が起きやすい交差点での安全確認や、一時停止の重要性などを伝えました。静岡県内では、地域の交通安全指導員が中心となり、自転車シミュレーターを使った自転車交通安全教室の活動が拡大しています。



静岡県静岡南警察署交通安全指導員による「Honda自転車シミュレーター」を活用した自転車交通安全教室



沖縄県の津嘉山自動車学校と熊本普及ブロックが協働で開催した沖縄県立沖縄工業高等学校での自転車交通安全教室

また、提携先の自動車教習所（P24参照）である沖縄県の津嘉山自動車学校、名護自動車学校でも、熊本普及ブロックと協働で、沖縄県立沖縄工業高等学校・沖縄県立名護高等学校で自転車シミュレーターを活用した自転車交通安全教室を開催しています。

安全に二輪車通学するためのトレーニング

高校生・大学生になると、移動手段に新しく二輪車、四輪車が加わってきます。Hondaは、高校生・大学生に対し、バイクやクルマの楽しさと安全の両面を伝える指導に取り組んでいます。

熊本普及ブロックは今年、熊本県立大津高等学校、鹿児島県鹿屋市立鹿屋女子高等学校、立命館アジア太平洋大学（APU）で、通学等で二輪車を利用する生徒を対象とした二輪車安全運転教室を実施しました。また、今年は津嘉山自動車学校、名護自動車学校と協働で、沖縄県立沖縄水産高等学校でも二輪車安全運転教室を行いました。

二輪車安全運転教室では、事故防止につなげていただくため、二輪車事故の特性の説明を行ったり、乗車装備や日常点検の重要性も伝えています。また、「Hondaライディングトレーナー」（P8参照）を活用した指導では、交差点での飛び出しの危険性や、基本的な交通ルールを守り危険を予測して行動することの大切さを伝えました。

他にも、「走る・曲がる・止まる」という基本を身につけるための実技トレーニングを実施しています。高校生や大学生の年代では、経験不足による判断ミスが事故を引き起こします。生徒たちには、無理な運転はせず、安全に走行することの重要性を伝え、正確な操作を身につけるトレーニングを行いました。

運転者としての責任を自覚してもらい、安全知識を増やし危険を予測する能力を高めることで、事故を起こさない運転だけでなく、事故に巻き込まれない運転を身につけていただきたいと思います。



鹿児島県鹿屋市立鹿屋女子高等学校で実施したライディングトレーナーを活用した交通安全教室（熊本普及ブロック）



沖縄県立沖縄水産高等学校では原付通学の生徒に実技指導を行った（津嘉山自動車学校・名護自動車学校・熊本普及ブロック）



指導者の声

今年5月に「Honda自転車シミュレーター」を導入し、10月までに中学生・高校生を対象にした自転車交通安全教室を10回開催しました。中学生・高校生は交通ルールを知ってはいるものの、危険予測能力はまだ未熟です。シミュレーター上で事故を疑似体験することで、生徒の皆さんに危険を予測することの重要性に気づいてもらいやすくなりました。また、体験した走行結果を様々な視点から確認できる再生機能も便利です。事故にあった場面で、他車から自分の自転車がどのように見えているのかを伝えることも、安全運転をしてもらう上でとても役立ちます。

静岡県静岡南警察署 交通安全指導員 係長 坂上 有美 さん

安全運転に役立つ豊富な知識や技術をお届けしています。



Hondaの交通教育センターでは運転者の方々に、より安全について理解を深めていただくため、参加体験型の実践教育を主体とした様々な安全運転教育を提供しています。販売会社では、お客様や地域の方々との関わりを大切にしながら、手渡しで安全をお伝えする活動を展開しています。

高度な安全教育を提供する「交通教育センター」

全国8カ所にあるHondaの交通教育センター（P26参照）では、社内外の指導者養成や、企業、学校、個人のお客様を中心に安全運転教育を行っています。今年は約7万人（10月末現在）の方にご利用いただきました。

個人のお客様向けには、Hondaモーターサイクリスト・スクール（二輪）やHondaドライビング・スクール（四輪）を開催。クルマやバイクの魅力を実感していただきながら、楽しく安全知識を身につけていただける様々なコースを用意し、お客様のスキルやニーズに合わせて提供しています。

企業向けには、業務内容や安全管理の実態に応じたプログラムを、オーダーメイドで提供しています。職場の安全指導者や運転経験の少ない新入社員への研修、多発事故防止に対応した研修など、企業のリスクマネジメントに幅広くご活用いただいています。特に、近年は環境に配慮した「セーフティ・エコドライブ研修」や、事故を未然に防ぐために危険予測能力を高める「Honda動画KYT」（P22参照）研修が注目を集めています。今年開発された新教育プログラム「感情コントロール」（P23参照）もすでに企業研修で導入されています。



郵便事業(株)の指導者研修



様々な路面状況での運転操作を体験

また、企業や諸団体の交通安全推進担当者様の情報交換の場も提供しています。埼玉県では、交通教育センターレインボー埼玉・和光主催の「2010 トラフィック・セーフティ・フォーラム in 埼玉」を開催し、約300名の方にご参加いただきました。さらに、全国3カ所で交通教育センター主催の安全運転セミナーが開催されました。その1つアクティブセーフティトレーニングパークもてぎでは、「社内のできる安全運転指導」をテーマに、事故削減に役立つ指導法の体験会を実施。職場の安全活動に活かそうと、体験会は大いに盛り上がりました。



Honda和光ビルで開催された「2010トラフィック・セーフティ・フォーラムin埼玉」（交通教育センターレインボー埼玉・和光）

手渡しで安全を伝える「販売会社」

二輪・四輪・汎用販売会社では、お客様との触れ合いを大切にしながら、手渡しの安全活動に取り組んでいます。安全運転に関するHondaの社内資格^{※1}を取得したスタッフを中心となって、店頭やイベントなどで安全アドバイスを行っています。販売会社は、安全ミニ講習会やドライビングスクール、ツーリングイベントを開催するなど独自に活動を展開しています。例えば、Honda Cars 福岡では、交通教育センターレインボー福岡を会場に、お客様感謝イベントを開催しました。お客様にエコドライブや安全運転の実技アドバイスを行ったほか、Honda自転車シミュレーター体験を実施し、ご家族で安全について考えていただく機会を提供しました。また、Honda Cars 東京中央では、「安全運転講習会」を実施。来店したお客様にエコドライブのコツを紹介し、Hondaセーフティナビを使ったエコドライブ診断にチャレンジしていただきました。九州地区では、Honda Dream 九州の1泊バイクツーリングイベントが開催され、九州各店舗を出発したツーリング隊計250名が鹿児島県霧島に集結。バイクの安全アドバイスのほか、親子連れのお客様には親子でバイクを楽しむ会などを実施し大盛況でした。また、オールHonda^{※2}として、毎年春と秋の全国交通安全運動と連動した「Hondaセーフティキャンペーン」を展開しています。例えば、販売店では今年、店頭でパンフレット「飲酒運転しないさせないガイド」を配布したり、のぼりや誘導旗などにより、お客様や地域社会へ安全運転の訴求を行いました。



お客様へ直接、安全運転のアドバイスを行うドライビングスクール（Honda Cars 福岡）



Hondaセーフティナビ体験を通してエコドライブのアドバイスを実施（Honda Cars 東京中央）

※1 Honda社内資格には、お客様に店頭などでアドバイスができる「セーフティコーディネーター」、安全講習会の企画立案、開催の実施指導ができる「チーフセーフティコーディネーター」、お客様の安全で楽しいモーターサイクルライフをサポートする「ライディングアドバイザー」、モンパルの安全な乗り方や正しい取り扱いなどについてアドバイスできる「モンパル安全運転指導員」などがある。

※2 Hondaの全事業所・各部門、交通教育センター、四輪販売会社、二輪販売会社（Honda Dream）、汎用販売会社、ホンダ輸送グループ。



お客様の声

当社は、郵便物をお客様にお届けするため、日々道路を利用します。そのため、安全最優先の集配業務を徹底し交通事故防止に取り組んでいます。社員の安全運転教育をさらに強化するため、鈴鹿サーキット交通教育センターと協力して安全運転の研修プログラムを作成しました。また、各交通教育センターで指導者研修を実施しています。Hondaの研修は、受講者が指導者の立場で考えながら学べる点が効果的だと感じます。知識や技術だけでなく、なぜそれが必要なのかも教えてもらえるので、各支店での安全指導に役立っています。

郵便事業(株) コンプライアンス部門安全推進部 交通安全担当係長 磯崎 征司 さん

日頃の交通行動を振り返っていただく機会を提供しています。



歩行中や自転車乗用中の交通安全を伝える

高齢者の歩行者・自転車用の交通安全教育プログラム「あやとりい 長寿編」は、高齢者向け交通安全教室で活用されています。地区普及ブロックでは、このノウハウの普及に努めており、地域の指導者へ広がりを見せています。栃木普及ブロックでは、栃木県真岡市・芳賀町・小山市などで交通安全教室を開催し、昼間と夜間のドライバーからの視認性の違いや道路の斜め横断の危険性などを伝えました。栃木県益子町では、地域の交通教育指導員が「あやとりい 長寿編」を採用して高齢者交通安全教室を行い、地域に根ざした交通安全活動を展開しています。また、高齢者の自転車事故防止のため「Honda自転車シミュレーター」を活用した交通安全教室も実施しています。鈴鹿普及ブロックでは、兵庫県西宮市で高齢者自転車教室を開催。実技と自転車シミュレーターを組み合わせた指導を展開し、安全行動の意識づけを図りました。さらに今年は、地域の要請を受け栃木県や熊本県などで、電動車いす利用者への安全な利用方法を指導する指導者養成研修会も実施しました。



栃木県益子町と栃木普及ブロックが連携し、高齢者学級で「あやとりい 長寿編」を実施



熊本県では、電動車いす利用者への安全指導方法を身につけていただく指導者研修を実施

高齢者の方々には、自身の身体機能の低下を自覚してもらい、それを交通行動の変容につなげることが必要であると考えています。Hondaは高齢者の方々に、安全にいきいきと交通社会へ参加していただくため、交通安全知識の提供や自発的な改善へと導く交通安全教育の普及に努めています。

いつまでも安全に運転を続けるための実技スクール

交通教育センターでは、高齢ドライバーを対象とした少人数制教育プログラム「Honda健康ドライブスクール」[※]を実施しています。参加した高齢ドライバーの運転を車載カメラで録画し、自分の運転映像を見て自ら問題点に気づいてもらい、運転への行動変容を促しています。

このプログラムは、自治体の進める高齢者向け安全対策にも活用されています。アクティブセーフティトレーニングパークもてぎでは、栃木県の「しあわせ高齢ドライバースクール」や、茂木町の高齢ドライバースクールにこのプログラムが採用され開催されました。クルマを必要とする高齢者にとって、日頃の運転を振り返り、安全運転知識を増やす機会として期待されています。



「Honda健康ドライブスクール」のプログラムを取り入れた、埼玉県警察本部の「高齢者いきいき運転講座」

[※] 東北工業大学の太田博雄教授らが財団法人国際交通安全学会などで研究成果を報告している「自己観察法」の手法を取り入れている。自分の運転を録画して観察し、「我が振り返り見て、我が振り返す」手法。

交通安全力を高める「いきいき運転講座」

一般社団法人日本自動車工業会が開発した高齢者向け交通安全プログラム「いきいき運転講座」の普及にも努めています。交通安全トレーニングと、脳の働きを高める「脳トレ」を組み合わせたプログラムで、仲間と一緒に話し合いながら、交通安全力を高めていくのが特長です。

地区普及ブロックは自治体、警察、地域と連携して、このプログラムを実践できる指導者を養成し、教育の輪を広げていく活動を展開しています。例えば、浜松普及ブロックでは、静岡県浜松市・磐田市・富士宮市・藤枝市、岐阜県羽島市などの自治体と協力しながら「いきいき運転講座」を実施しました。浜松市浜北区では、浜北警察署の交通安全指導員が「いきいき運転講座」を主催し、参加する高齢者がリーダーとなって安全な通行方法を話し合うなど、地域での普及が進んでいます。



高齢者同士が安全について話し合う静岡県浜北警察署による交通安全教室



社団法人千葉県シルバー人材センター連合会と埼玉普及ブロックが連携した「いきいき運転講座」



指導者の声

Hondaのインストラクターの方から「いきいき運転講座」の指導ノウハウを提供してもらい、交通安全教室で積極的に活用しています。今年は10月までに高齢者を対象に20回実施しました。高齢者同士で話し合いながら進行するので、従来の講話中心の交通安全教室に比べて一人ひとりの参加意識も高くなっています。また、この教育プログラムは運転免許を持っていない方が参加できるのも特長の1つです。運転者、歩行者、自転車利用者、様々な立場からの意見を聞くことで、日頃の自分の交通行動を見つめ直す良い機会になっていると思います。

静岡県浜北警察署 交通安全指導員 係長 大場 佐生代 さん

ソフトウェアの開発

運転者に気づきを促す教育プログラムや教育機器を開発しています。

Hondaは安全運転教育の効果を高めるための教育プログラムや教育機器の開発を行っています。教育機器であるシミュレーターは、交通場面における危険の疑似体験や、自分の運転の振り返りなど実践的に気づきを促す教育を進めるにあたって最適です。さらに、シミュレーターの開発で培った独自の技術を活かして、新たな教育機器を生み出しています。また、研究団体などと連携して、時代のニーズに合った教育プログラムづくりにも取り組んでいます。

危険予測能力を高めるためのシミュレーター

今年2月に発売した「Honda自転車シミュレーター」は、自転車乗用中の危険予測能力を高め、交通ルールとマナーを楽しく学んでいただくことを目的としています。発売以来、警察や自治体、自動車教習所などに導入され、各地で実施されている自転車教育の中で活用されています。

「Hondaドライビングシミュレーター」は2001年の発売以来、国内外の教習所や研究機関などで活用されています。そして今年3月、このシミュレーターをフルモデルチェンジしました。受講者の危険に対する認知力や理解力をさらに高められるよう、運転中に起こる可能性が高い危険場面での注意点や安全運転のアドバイスを、わかりやすく解説する「危険場面解説機能」などを新たに追加しています。また、高画質な液晶ディスプレイを採用することで、より実際に近い運転感覚の体験も可能になりました。



「Hondaドライビングシミュレーター」は従来の6軸に加え、コンパクト設計の2軸モーションタイプを用意



各地域での自転車教育に活用されている「Honda自転車シミュレーター」

シミュレーション技術を活かした教育機器

イラストや写真など静止画によるKYT(危険予測トレーニング)は「この状況ではこうなる」というパターンの引き出しを増やすには有効ですが、時間経過とともに状況が変化している交通環境の中で予測し、判断する能力のトレーニングには対応しきれません。こうした点を補完し、実際の交通状況により近づけることを目的に、二輪・四輪のシミュレーション技術を応用し、臨場感あるコンピュータグラフィックス映像を利用した「Honda動画KYT」を今年11月に発売しました。この「Honda動画KYT」は、実際の交通状況を再現した動画を見ながら危険を予測し、結果を受講者同士が振り返って議論することで安全を学ぶ教育機器。動画を見ながら、危険を感じた場面で手元のボタンを押し、危険予測を行います。その後、ボタンを押した時点を記録したデータをスクリーンに表示し、「どのような危険を感じたのか」などのディスカッションを行うことで、二輪車や四輪車を運転する際の安全を学びます。社員の安全教育に取り組む企業や、企業向けの研修を行う教習所への普及をめざしています。



静止画とは異なり、瞬間での判断が求められるので、実際の運転に近い状況でトレーニングが可能。また多人数にも対応



「Honda動画KYT」販売セット。指導者用ノートパソコンと受講者用のボタンなどがセットになっている

医療機関でも活用される「Hondaセーフティナビ」

「Hondaセーフティナビ」はより広く、より多くの方々にHondaのシミュレーターを普及することをめざして開発された安全運転教育用ソフト。パソコンを使用し、市販のステアリングなどと組み合わせることで、簡易型シミュレーターとして手軽に使用できることが特長です。今、この「Hondaセーフティナビ」が医療機関にも導入されています。

その医療機関の1つ、亀田メディカルセンター^{※1}(千葉県鴨川市)では、脳梗塞などが原因で高次脳機能障害になって入院された患者さんが通常の生活に戻った時、クルマの運転ができるかどうか、運転能力を評価する材料の1つに利用しています。確認動作など、机上の運転適性検査では把握できないことがわかるので、より適切なアドバイスができると、医療の現場でも評価されています。



亀田メディカルセンターでは、あらかじめ設定されているコースを運転してもらい、その走行状況の再生画面を見せながらアドバイス(患者さんによっては近隣の自動車教習所と連携して実車教習を行う)

※1 亀田メディカルセンターとは、亀田総合病院を中心とした亀田クリニック、亀田リハビリテーション病院などの医療サービスの総称

運転者向けの新教育プログラム「感情コントロール」

クルマの運転では、いくら運転技術が優れていても、運転中のネガティブな感情(焦り・怒り)によって行動が左右され、自ら危険な状況をつくり出し、事故につながってしまうケースがあります。「感情コントロール」とは、こうしたネガティブな感情とドライバーが運転時にどう向き合い、どのように自己コントロールをして安全運転に結びつけていくかを心理学的に検証し、開発された教育プログラム。財団法人国際交通安全学会の研究プロジェクト^{※2}「ドライバーの感情特性と運轉行動への影響～感情コントロールのための教育プログラムの開発を目指して～」として研究が進められ今年、その研究成果が発表されました。

この教育プログラムは、公益法人の研究成果として社会で幅広く活用されることを前提に開発されており、様々な教育現場での利用が可能となっています。今年4月よりHondaの交通教育センターでは企業ドライバー向けの研修に、この「感情コントロール」をいち早く導入しました。

※2 研究プロジェクトは、小川和久・東北工業大学共通教育センター教授をリーダーに、メンバーとして太田博雄・東北工業大学ライフデザイン学部教授、向井希宏・中央大学心理学部教授、本田技研工業安全運転普及本部が参画



「感情コントロール」を活用した企業向けの安全運転研修。「感情コントロール」のポイントは自分の感情特性に関する「自己理解」と、各々が確認した自分のネガティブな感情への、自分なりの「対処法の学習」。これらを受講者同士がディスカッション形式で進めていくのが特長



指導者の声

フルモデルチェンジした「Hondaドライビングシミュレーター」を今年4月から運用しています。運転席まわりは実車と同じ造りなので、違和感なく操作ができると教習生の方にも好評です。Hondaのシミュレーターは現実に近い交通状況と危険場面が再現されています。路上教習では体験できない場面をシミュレーターの中で体験しておくことは、たいへん有効です。安全運転意識の高いドライバーを育てることが私たちの目的なので、そのために大いにシミュレーターを役立てていきたいと思っています。

福島県 杉妻自動車学校代表取締役 高橋 覚男 さん

交通安全の輪を全国に広げ、定着させるために。

自動車教習所は運転免許取得のための教育の場としてだけでなく、地域での交通安全教育を実践する場としても期待されています。同じ志を持つ自動車教習所に対し、Hondaは教育プログラム・教材や指導者のレベルアップ教育の提供などを通じて、各地の自動車教習所が主体的に取り組む交通安全活動をサポートしています。

自動車教習所の自主的な活動をサポート

Hondaは、地域において交通安全教育に積極的に取り組んでいる自動車教習所との連携を通じて、交通安全の輪を全国に広げ、定着させるための活動をサポートしています。現在、17都道府県36校の自動車教習所と提携し、活動を推進しています(下図参照)。

今年は、沖縄県にある津嘉山自動車学校や名護自動車学校と熊本普及ブロックが協働で、県内の高校での二輪車や自転車の安全運転教室を開催しました(P17参照)。高校の先生方からは、「体験を通じて学べるので生徒が理解しやすい」と評価されています。また、青森県にある青森モータースクールではHonda自転車シミュレーターを導入し、地元の高校生への自転車教育を積極的に行っています。

さらに、教習所職員の方々にHondaの交通教育センターでのお客様対応などを紹介する「マインドウェア向上研修」を今年からスタートし、提携先の自動車教習所にご利用していただいています。



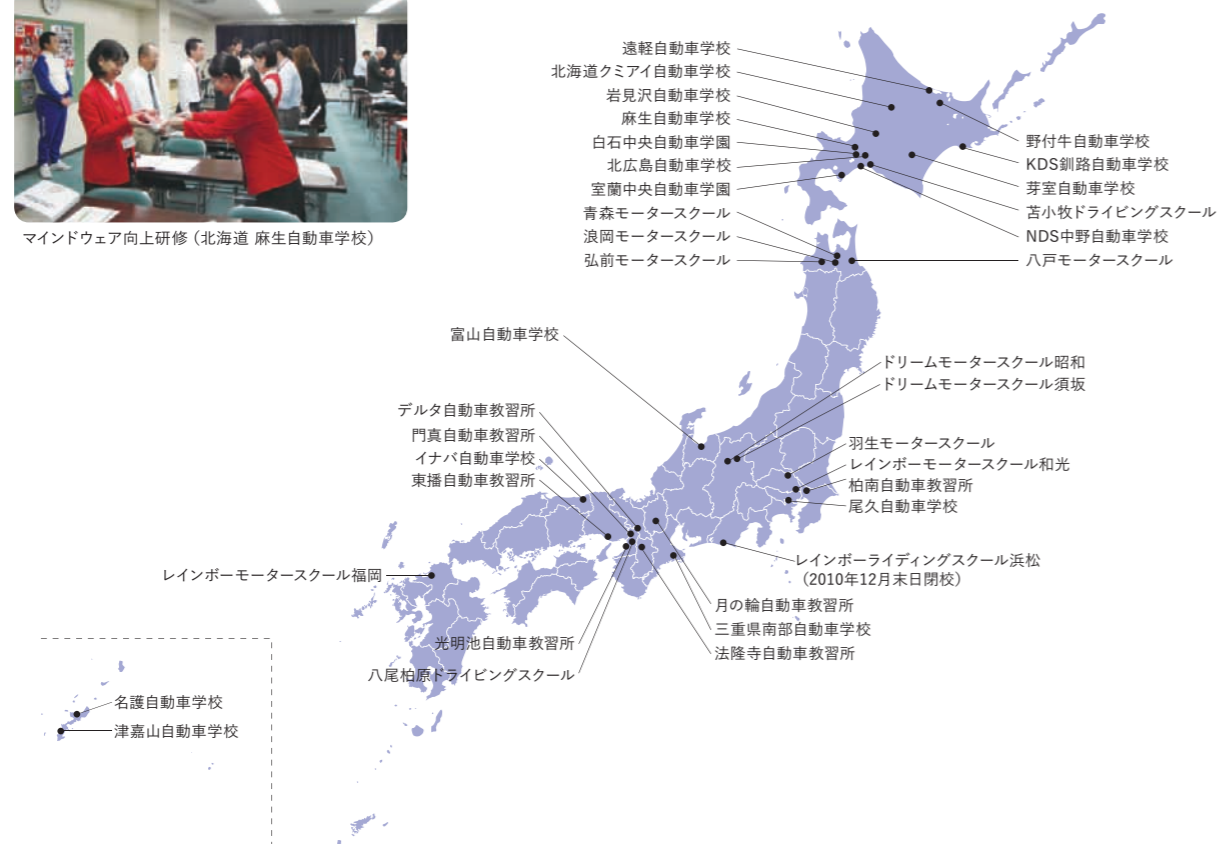
沖縄県立沖縄水産高校の生徒への二輪車安全運転教室(津嘉山自動車学校・名護自動車学校)



地元の高校生を対象とした自転車教室(青森県 青森モータースクール)



マインドウェア向上研修(北海道 麻生自動車学校)



関係団体と連携し、交通事故の低減をめざしています。

交通安全活動をされている関係諸団体や業界の方々とも、積極的に連携しながら活動の拡大に取り組んでいます。社会のニーズに合わせて、交通安全に関する情報提供も行っています。

業界活動などへの積極的な協力

全国の自動車教習所教習指導員の皆様の自己研鑽への動機づけや交流の場をご提供することを目的として、2001年に始まった「全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」は今年10回目を迎えました。会場となっている鈴鹿サーキット交通教育センターで、全国82校171名の教習指導員の皆様が2日間にわたり競技に取り組まれました。

1969年より毎年、警察庁が開催している「全国白バイ安全運転競技大会」には審判業務などで協力しています。

また、一般社団法人日本自動車工業会の一員として春と秋の「全国交通安全運動」にも協力しています。二輪車では社団法人全国二輪車安全普及協会が展開する参加体験型の安全運転講習会「グッドライダーミーティング」の指導などに協力しました。



第10回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会での四輪競技



第43回二輪車安全運転全国大会の審判業務などで協力



第42回全国白バイ安全運転競技大会の審判業務などで協力

ホームページや情報紙を通じた情報発信を展開

ホームページ「Hondaの交通安全」では、安全運転に役立つ情報を発信しています。安全運転やエコドライブのポイントをはじめ、お子様や高齢者の方々に交通事故にあわないようにしていただくためのアドバイスを紹介しています。

今年、「シニアの皆様への交通安全情報」では、地域の指導者の方が高齢者対象の交通安全教育の現場で、そのまま教材としてご活用いただけるコンテンツ「シニア向け交通安全啓発シート」を追加しました。

この他、1971年より発行しているHondaの交通安全情報紙「Sj」を通じて、指導者の方に役立てていただける情報提供を行っています。



ホームページ「Hondaの交通安全」。初心運転者、子ども、高齢者、女性など、幅広い方々に対応したコンテンツを用意



遊びながら交通安全について学べるコンテンツ「KYT」「交通安全ゲーム」なども充実



交通安全情報紙「Sj」

※これらの情報は、ホームページで詳しくご覧いただけます。(裏表紙参照)